

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
平成31年度事業計画

基本方針

主として独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）からの委託を受け、組踊等の公開等の事業について次の業務を行う。

- 1 沖縄伝統芸能等の公演
- 2 伝統芸能伝承者養成業務
- 3 調査研究、資料収集・利用業務
- 4 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- 5 国立劇場おきなわの施設の管理運営及び劇場施設の利用に関すること
- 6 その他必要な業務

1 沖縄伝統芸能等の公演（118,091千円）〈前年度102,948千円〉

（1）自主公演の開催（103,019千円）（※うち、2,000千円は（4）沖縄県・国立劇場おきなわ鑑賞層拡大事業と重複）

①自主公演

〔目的〕 自主公演の開催。

〔事業内容〕 自主公演の稽古及び開催。

〔公演内容等〕 下記の30公演37回を行う。

定期公演（14公演14回）

| 公 演 名 | 期 間 | 回数 |
|-----------------------------|--------|----|
| 組踊「万歳敵討」「義臣物語」 | 4月20日 | 1 |
| 琉球舞踊「男性舞踊家の会」 | 4月27日 | 1 |
| 組踊「忠臣身替の巻」 | 5月15日 | 1 |
| 三線音楽「古典音楽の美」 | 5月25日 | 1 |
| 組踊「花売の縁」 | 6月29日 | 1 |
| 琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 | 7月20日 | 1 |
| 沖縄芝居「王女御嶽」「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」 | 9月14日 | 1 |
| 琉球舞踊「琉球舞踊特選会」 | 9月28日 | 1 |
| 民俗芸能「組踊『父子忠臣』～竹富島仲筋村～」 | 11月24日 | 1 |
| 琉球舞踊「琉球舞踊特選会」 | 12月14日 | 1 |
| ※琉球舞踊「春夏秋冬を舞う」 | 1月11日 | 1 |
| 組踊「伏山敵討」 | 2月22日 | 1 |
| 琉球舞踊「男性舞踊家の会」 | 2月29日 | 1 |
| 三線音楽「島唄の響き」 | 3月14日 | 1 |

企画公演（8公演9回）

| 公演名 | 期間 | 回数 |
|---------------------|-----------|----|
| 語り組踊「恋し子の方星」 | 6月15日 | 1 |
| 新作組踊「花の幻」「花よ、とこしえに」 | 8月24日～25日 | 2 |
| アジア・太平洋地域の芸能 | 10月27日 | 1 |
| 国立劇場寄席 | 11月17日 | 1 |
| 能「翁」「羽衣」 | 12月21日 | 1 |
| 能「放下僧」「石橋」 | 12月22日 | 1 |
| ゆらていく遊ば | 1月18日 | 1 |
| ※新作組踊「春時雨」 | 3月21日 | 1 |

研究公演（2公演2回）

| 公演名 | 期間 | 回数 |
|----------------|-------|----|
| ※御冠船踊と組踊「執心鐘入」 | 10月4日 | 1 |
| ※御冠船踊と組踊「銘苺子」 | 10月5日 | 1 |

普及公演（6公演12回）

| 公演名 | 期間 | 回数 |
|--------------------------------------|------------|----|
| 組踊鑑賞教室「二童敵討」 | 6月8日 | 1 |
| 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」 | 7月27日 | 1 |
| 琉球舞踊鑑賞教室 | 8月10日 | 1 |
| 沖縄芝居鑑賞教室「怪猫伝・化け猫～山田祝女殿内～」 | 9月12日～13日 | 2 |
| 組踊鑑賞教室「執心鐘入」 | 10月16日～18日 | 6 |
| はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」 | 10月19日 | 1 |

※日本博事業

②組踊上演300周年記念公演の開催

[目的] 2019年は組踊上演300周年に当たる。そこで、組踊に関連する自主公演を「組踊上演300周年記念公演」と位置づけ、上演する。

[事業内容] ・定期公演「組踊『万歳敵討』『義臣物語』（4月20日）
 ・定期公演「組踊『忠臣身替の巻』（5月15日）
 ・定期公演「三線音楽『古典音楽の美』（5月25日）
 ・普及公演「組踊鑑賞教室『二童敵討』（6月8日）
 ・企画公演「語り組踊『恋し子の方星』（6月15日）
 ・定期公演「組踊『花売の縁』（6月29日）
 ・普及公演「親子のための組踊鑑賞教室『女物狂』（7月27日）
 ・企画公演「新作組踊『花の幻』『花よ、とこしえに』（8月24日～25日）」

- ・研究公演「御冠船踊と組踊『執心鐘入』」(10月4日)
- ・研究公演「御冠船踊と組踊『銘苅子』」(10月5日)
- ・普及公演「組踊鑑賞教室『執心鐘入』」(10月16日～18日)
- ・普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊『執心鐘入』」(10月19日)
- ・民俗芸能公演「組踊『父子忠臣』～竹富島仲筋村～」(11月24日)
- ・企画公演「能『翁』『羽衣』」(12月21日)
- ・企画公演「能『放下僧』『石橋』」(12月22日)

(2) 自主公演の開催準備 (342千円)

- [目 的] 公演事業委員会で、平成32年度開催の自主公演のあり方について検討する。
- [事業内容] 公演事業委員会を開催し、有識者から様々な意見を聴取、検討する。

(3) 沖縄県文化観光戦略推進事業(文化観光基盤整備事業) (5,000千円)

- [事業内容] 国立劇場おきなわが、県内外の多くの方が利用する本県の文化観光施設の拠点となることを目指し、県外公演を実施する。
- [公演内容等] 演目等内容調整中。

(4) 沖縄県・国立劇場おきなわ鑑賞層拡大事業 (6,317千円)

(※うち、2,000千円は (1) 自主公演の開催と重複)

- [目 的] ア) 国立劇場おきなわの公演を鑑賞する機会の少ない層に影響がある集団に対して、ワークショップ等を行い、劇場までのバスチャーター経費を助成する。
- [事業内容] ア) 貸切バスの費用助成を行う。
イ) 組踊ワークショップ等を開催する。

(5) 地域の文化芸術振興事業 (3,413千円)

- [目 的] ア) 実演家による舞台芸術公演等に触れる機会の少ない離島・北部地域等を対象として、当劇場で上演された演目の再演、展示、おでかけ講座・ワークショップを実施し、当劇場の取組をPRするとともに、組踊等の伝統芸能の普及を図る。
- [事業内容] ア) 当劇場で上演した公演を離島・北部地域等で再演する。場所は、調整中。

2 伝統芸能伝承者養成業務 (22,959千円) (前年度23,148千円)

(1) 組踊(立方・地方)の伝承者養成事業 (20,268千円)

[目的] 国の重要無形文化財「組踊」立方・地方の伝承者を養成する。

[事業内容] 第五期研修生に対し、実技(組踊・副・基礎)等研修及び発表会を実施する。また選考委員会を開催し、第6期生を募集・決定する。組踊養成事業の計画並びに評価を専門的観点から検討するため、養成事業委員会を開催する。

(2) 既成者研修事業 (2,691千円)

[目的] 研修を修了した者に既成者研修を行い、技芸の向上を図る。

[事業内容] 組踊研修を修了した若手実演家に対し、組踊実技の研修及び若手伝承者公演を実施する。

3 調査研究、資料収集・利用業務 (34,231千円) (前年度34,177千円)

(1) 芸能記録作成 (28,785千円)

[目的] 組踊等沖縄伝統芸能の調査を実施し、収集、整理及び記録作成を行う。また、自主公演の公演記録、上演資料集、公演記録台本の作成を行う。

[事業内容] 組踊等沖縄伝統芸能の調査、収集、整理及び記録作成を行うとともに、自主公演の公演記録、上演資料集及び公演記録台本の作成及び「冊封琉球全図」の出版を行う。

(2) 組踊等沖縄伝統芸能の図書資料等の収集・整理・利用 (5,446千円)

[目的] 組踊等沖縄伝統芸能の保存・継承に資する図書資料等の収集、整理を行う。また、芸能資料展示、公演記録映像の公開を行い、一般の利用に供する。

[事業内容] 図書資料等の収集整理、芸能資料展示、公演記録映像の公開を行い、一般の利用に供する。また、組踊上演300周年を記念した「特別講座」を開催する。

4 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること (8,040千円) (前年度7,628千円)

(1) 劇場施設の貸付

[目的] 劇場施設(大劇場、小劇場及び稽古場)の貸付を行い、芸術・文化の振興に寄与する。

[事業内容] 劇場施設の貸付を行い、国民の芸術・文化活動等の利用に供する。

5 国立劇場おきなわの施設の管理運営 (584,954千円) (前年度579,581千円)

(1) 国立劇場おきなわの施設の管理運営

[目的] 振興会からの委託を受け、国立劇場おきなわの施設の管理運営を行う。

[事業内容] 国立劇場おきなわの施設の管理運営。

6 その他必要な業務（26,115千円）〈前年度20,670千円〉

(1) 「国立劇場おきなわ友の会」の会員募集及び講演会等の開催（4,530千円）

〔目的〕 国立劇場おきなわ主催公演を継続的に鑑賞する人への優遇を目的として、「友の会」会員の募集を行う。また、会員の特典の一つとして、講演会、バスツアー等を開催する。

〔事業内容〕 「国立劇場おきなわ友の会」の会員募集、会報の発行及び講演会等の開催。

(2) 募金活動の推進（640千円）

〔目的〕 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の活動資金の造成を図る。

〔事業内容〕 企業等へ寄附金を依頼する。

(3) 文化プログラム関連事業（20,945千円）

①オーディオガイドシステムの導入（3,187千円）

〔目的〕 外国人客や県外観光客にも組踊公演を楽しんでいただくため、オーディオガイドを提供する。

〔事業内容〕 普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」において、日・英・中・韓4ヵ国語のオーディオガイドを導入することで、外国人客や県外観光客の観劇をサポートする。

②企画展示における多言語リーフレットの作製（333千円）

〔目的〕 初めて沖縄の伝統文化に触れる外国人観光客にも、「組踊」の魅力をわかりやすく伝える。

〔事業内容〕 平成31年度開催予定の国立劇場おきなわ企画展「朝薫の五番」において、多言語パンフレット・展示解説リーフレットを作製し、配布する。

③外国人のための組踊ワークショップ（178千円）

〔目的〕 外国人客が組踊に対する理解を深め、公演をより楽しんでいただけるよう、英語通訳のある組踊ワークショップを開催する。

〔事業内容〕 普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」の開演前に、英語通訳のある組踊ワークショップを開催し、レクチャー・体験等を通して組踊への理解を深めていただくことで、外国人客の観劇をサポートする。

④沖縄と東アジアや日本本土の民俗芸能に関する調査及び企画展示（1,878千円）

〔目的〕 沖縄と東アジアや日本本土の民俗芸能に関する比較研究を行い、その成果を広く発信することで、アジア・太平洋地域の友好交流に寄与するとともに、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域との交流を深めるための契機とする。

〔事業内容〕 中国、韓国、台湾、日本本土と沖縄において、共通点や類似点のある民俗芸能の調査研究を行い、企画展示等で発表し公

開する。

⑤組踊300年 男（女形）芸の継承と発信（県外公演等）（8,000千円）

[目 的] 沖縄芸能・文化の独自性と伝統を活かし、「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の公開及び若手実演家への技芸の継承を図る。あわせて、2020年東京大会の開催を目前に、2019年は組踊上演300周年の節目でもあることから、フランス・パリにおいて組踊等伝統芸能を上演することで、我が国の文化の多様性を海外へ広く発信する。

[事業内容] 当劇場で上演した演目の再演のほか、調査研究（「講座」「展示」「シンポジウム」関連イベント等）事業等体験型企画を、可能な限り一体的に実施することにより、文化交流を通して、組踊等伝統芸能への理解を深めていただくと共に、伝統文化を通じた交流の拠点となることを広くアピールする。

⑥組踊ワークショップ等の開催（6,783千円）

[目 的] はじめて組踊等の沖縄伝統芸能に触れる方にも興味を持っていただけるよう、県内外において組踊ワークショップ等のイベントを開催する。

[事業内容] 自主公演や県外公演にあわせ組踊ワークショップ等のイベントを県内外において開催することで、沖縄伝統芸能の魅力を伝えていく。

⑦「外国人のための組踊鑑賞教室」に関する広告宣伝費（350千円）

[目 的] 「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊『執心鐘入』」をPRするため、多言語のチラシやポスターを作成するほか、外国人向けの広報媒体に広告を掲載する。

[事業内容] 「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊『執心鐘入』」の多言語版チラシ・ポスターの制作及び英字新聞等の広告媒体への掲載。

⑧電話通訳サービスの導入（236千円）

[目 的] 外国人客と円滑なコミュニケーションが図れるよう窓口の体制整備及びサービス向上を図る。

[事業内容] 劇場への来場または電話による問い合わせをされる外国人客に対応するため、民間会社の提供する電話通訳サービスを利用する。